南の光明

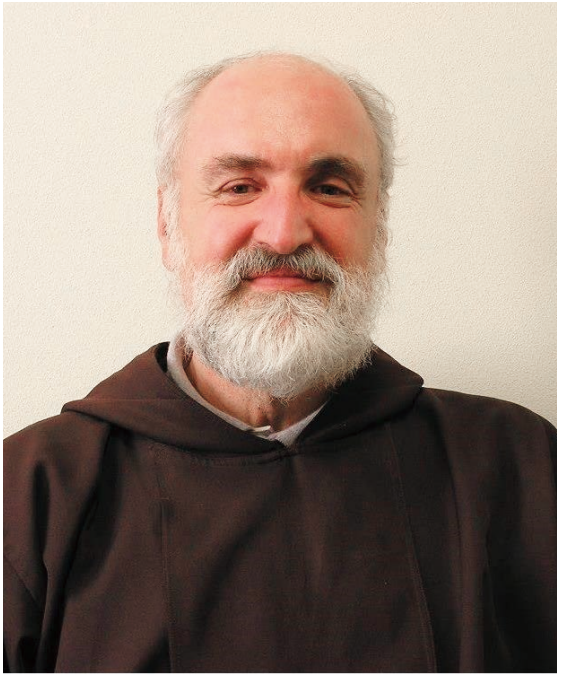
今年の教区の目標
黙想の家・若者たちを
教会の宝に

〒902-0067　那覇市安里3-7-2
カトリック那覇教区本部
TEL.098-863-2020 FAX.098-863-8474
発行人　押川　壽夫司教　1部40円
http://www.naha.catholic.jp/

(1) 2017年12月1日（毎月1日発行）　カトリック那覇教区報 MINAMI NO KŌMYŌ　第709号（12月号）

ウェイン・バーント神父（O.F.M.Cap.）新しい那覇教区司教に！

教皇フランシスコは、十二月九日(土)、那覇教区のベラルド押川壽夫司教(コンベンツアル聖フランシスコ修道会)の引退願いを受理し、沖縄・与那原教会の主任司祭ウェイン・バーント神父(カプチン・フランシスコ修道会)を同教区の新しい司教として任命しました。



バーント被選司教は一九五四年五月十五日米国ウースター教区フィッチバーグ(マサチューセッツ州)生まれ。カプチン・フランシスコ修道会に入会し、一九八一年に来日。一九八三年に米国で司祭に叙階されました。以来、那覇教区や、さいたま教区で働いてきました。

那覇教区は一九七二年に設立されましたが、それ以前の琉球使徒座管理区の時代には、フェリックス・レイ師(カプチン・フランシスコ修道会／後の司教)が管理区長を務めていました。

レイ師は一九七二年に急逝、石神忠真郎師(同会)が教区司教になりました。石神司教は一九九七年一月に引退し、同年五月二十五日、押川師が那覇教区司教として叙階されました。

那覇教区は信者数約六、二〇〇人。小教区は十三で、二十三人の司祭(司教を含む)、四人の助祭、一人の修道士と六十四人の修道女が働いています。(二〇一六年十二月現在)

新司教誕生にあたり
ベラルド押川壽夫司教

教皇フランシスコはウェイン・バーント神父を那覇教区の司教に任命、これは日本の教会にとっては異例とも言える出来事です。しかし、沖縄にとっては、もっともふさわしい司教、誰もが待ち望んでいた牧者です。小さくされた人々を心にとめ共に歩む大きな司教、ウェイン被選司教は教皇フランシスコと霊性を同じくする「よき牧者」になるでしょう。

教皇様から沖縄への大きなクリスマスプレゼントをいただきました。なんと嬉しいことか、この大きな喜びを教区の皆さんとともに神に感謝します。

私は司教職を退任するにあたり、教区の皆さんにこれまで力不足の私を支え、たくさんの犠牲とお祈りをいただいたことを心から感謝いたします。

私は琉球弧の生まれであることを常に意識してきました。那覇教区の司教に任命され司教叙階式の時、《私は今日からウチナンチュー》になると宣言し、日々その心で二十年余の司教職を皆さんと共に歩んでまいりました。

退任後も那覇教区に留まり、ウェイン新司教様に奉仕して沖縄に骨を埋めるつもりです。これまで私を司教として受け入れ、毎日のお祈りとご支援を賜りました那覇教区の皆様と多くの沖縄内外の皆様に改めて心よりお礼を申しあげます。新たな司教様とともにかりゆしの那覇教区新たな船出を祝します。

℣主の平和

この度、那覇教区の新しい牧者である新司教にウェイン・バーント神父の任命が発表されました。感謝のうちに急ぎ叙階式の準備に取り掛かっているところです。

つきましては、下記の日程で司教叙階式が執り行われることとなりましたのでお知らせいたします。(押川壽夫司教)

カトリック那覇教区 司教叙階式 日程のご案内

■日時　2018年2月12日(月)　【振替休日】午後2時～
■場所　カトリック安里教会　聖堂［ゆいレールおもろまち駅1分］

Merry Christmas!

クリスマスのお慶びを申し上げます！

今年もクリスマスをお迎えする季節となりました。「見よ、私たちのために世の救い主がお生まれになった！」というご降誕の宣言が私たち一人ひとりの心を新たな平和と喜びで満たしてくれますようにお祈り申し上げます。

カトリック那覇教区　司教　ベラルド・押川壽夫

◎私の待降節

この教区報「南の光明」十二月号の原稿を書いている現時点では、未だ待降節も迎えていない十一月の初旬です。私は司教としてこれまで皆様に降誕祭のご挨拶を始めてから早くも二十年の年月が経過しました。

時の流れとともに歳も寄って来た今、私は一年半余《私の待降節》を過ごしています。それというのも、教会法の規定に従い司教引退届を提出してから今日まで那覇教区の後任司教の任命を告げる教皇様からの便りを待ち続けているからです。

このクリスマス・メッセージが教区報に掲載される頃には、大きな喜びの知らせが教皇様から届いているかもしれません。

それで、私は今年のクリスマス・メッセージが皆さんへの最後のご挨拶だとの思いを込めて認めています。今年のクリスマスの喜びが新しい司教任命発表とともに不安を超えて大きな喜びとなるように祈ります。

クリスマスは「不安と悲観主義を乗り越える、信頼と希望の祝いです」と教皇フランシスコは述べて、信仰の光に照らされてご降誕の神秘を祝うように招いています。

すべてを神のみ摂理に委ねて、ベトレヘムの馬小屋の飼い葉桶の幼子イエスを示す聖母に祈りを捧げましょう。

◎降誕祭の神秘

救い主の誕生は神が大いなる憐れみを示して、ご自分の住まいとして地上をお選びになられて、私たちと同じ人間となるほど私たちと関わってくださり、私たちのただ中に来られたという神秘です。

これが、神の憐れみであり、真の救い、喜びです。

ベトレヘムの幼子は、すべての人の救いと喜びのためにお生まれになったのです。私たちは聖母を通して神様を賛美する祈りを聖母の喜びにあわせて唱えます。《Ave Maria! 喜びなさい、恵まれたかたよ。主はあなたとともにおられます》と。

ご降誕の聖なる夜に神の使いは告げます、「恐れるな、私は民全体に与えられる大きな喜びを告げる。今日ダビデの町であなた方のために救い主がお生まれになった。この方こそ主メシアである」（降誕祭ミサの福音より）。

「きのうも今日も、また永遠にかわることのない方」（ヘブ十三、8）である救い主イエス様が、そのご降誕の秘儀を祝う私たちに、やがて迎える新年にもかわることのない祝福と平和を与えてくださいますように、今年も那覇教区カテドラル・開南教会でささげるクリスマス聖夜ミサで心からお祈り申し上げます。

Book

カトリック文化センターからお知らせ

年末、12月27日(水)から年始、1月3日(水)まで文化センターはお休みとなります。来年もよろしくお願いいたします。

カトリック文化センター
〒900-0005 那覇市天久 1-8-7　電話・Fax 098-868-4649

NPO法人ぶどう園の会

訪問看護ステーション クララ

－10月1日より業務開始しました－

TEL&FAX：**098-937-5001**
住所　沖縄市泡瀬4-22-13-103
・基本受付　月曜日～金曜日（申込、相談など）
・営業時間　8:30～17:30
・営 業 日　24時間365日（緊急対応含む）

教区召命担当司祭から

名護教会　ヨセフ・ブイ神父

福岡コレジオと日本カトリック神学院福岡キャンパス見学

十一月三日、私と首里教会の新田さんと那覇教区の四人の子どもたち（宮城マイケル・ベンジくん、平良優孝くん、岡部修くん、東佳祐くん）は、日本カトリック神学院福岡キャンパスで行なわれた神学院祭に行って来ました。

司祭を志願する人たちは、高校を卒業して四年間、福岡コレジオに行き、大学に通いながら学びます。その後、日本カトリック神学院東京キャンパスで二年間哲学を中心に学び、福岡キャンパスで四年間神学を学びます。

今回の神学院祭では、九州のたくさんの司祭たちと、京都教区の司教様がともに校庭でミサをささげ、一緒にこのごミサにあずかることができました。ミサのあと、オープンハウスで校内を見学し、神学院の先生方や神学生たちから説明を受けました。

那覇教区の召命担当者として、押川司教様をはじめ、那覇教区のみなさま、召命のためのこれまでの祈り、支え、励ましに心から感謝申し上げます。

この四人が、福岡コレジオに入学するかどうかはまだ分かりませんが、那覇教区でのプログラムを通して、召命の希望が芽生えてくれることを期待したいと思います。彼ら以外の子供たちでも司祭になりたいと思っている方は、どうぞ主任司祭にお話ししてください。一緒に学んでいきましょう。また子供を司祭にしたいと思われるご両親、ご家族は、司祭への召命のために子供たちのためお祈り下されば幸いです。

今年は、召命の目的で始まったサマーキャンプの五十周年という大きな節目の年です。みなさま、どうぞ今後も引き続き那覇教区の召命のため、力強いお祈りで支えてくださいますよう、お願いいたします。

以下、見学した子どもたちの感想を紹介します。

僕は、十一月二日から四日まで福岡の新学院祭に行ってきました。神学院はとても大きくて最初見たときは圧倒されてとても驚いたのが印象的です。

また、神学院で大勢の人達とミサをして、とても良い環境でミサが出来て良かったです。福岡に滞在している間は、福岡コレジオという神学生志願院に宿泊しました。

そこでは、大学生の司祭を目指してる方が五人いて、五人とも、司祭になるという目標をしっかり持っていてすごいなと思いました。今回、神学院や福岡コレジオに行って、普段は体験できないような貴重な体験をすることができました。

今回の旅で多くの方に協力してもらい、多くのことを学ぶことができました。今回学んだ沢山のことをこれから教会や那覇教区のために貢献して行けたらと思っています。

（石垣教会　平良優孝）

私は、十一月二日から四日まで福岡の神学院祭に行ってきました。建物が大きくてびっくりしました！神学院では皆さんとミサを一緒にしました。

ミサでは京都の司教様の話や、侍者たちのやり方などを観れて、とても勉強になりました。たくさんの人にお世話になった二泊三日でした。この経験をいつか活かせるようにしたいなと思います。

（真栄原教会　宮城マイケル・ベンジ）

十一月二日から三日にかけて福岡キャンパスで行われた神学院祭へ行かせて頂きました。

京都教区の大塚司教様の司式でミサが行われて、今年の神学院祭のテーマである、「神の声を聞こう」についてお話をして下さいました。

ミサが終わると司祭の方々とお話する機会があり、沖縄から来た事を言うと、「遠い所からすごいね」と言って下さいました。

建物の前の広場では八～九カ所の教会から屋台が出ていたり、神学生によるビンゴやお化け屋敷、神学院ツアーなどいろいろな企画がありました。とても充実した内容であっという間の時間でした。

神学生は勉強ばかりで外の世界とはかけ離れた生活をしていると思っていましたが、意外にもサッカーや野球などスポーツをする時間があって、とても楽しそうでした。自分の想像していた神学生の生活とは全く違っていて、とても興味を持つ事が出来ました。

（首里教会　岡部修）

十一月二日、三日の一泊二日で福岡の神学院祭に行きました。神学院の敷地は、とても広くて大きかったです。大聖堂は、綺麗で驚きました。

各教会が屋台を出しており、たくさん美味しいものが食べられました。行く前は、真面目そうな所だと思っていました。けれど、神学院祭に行ってみるとすごく楽しそうなところだと思いました。また行きたいです。

（首里教会　東佳祐）

Merry Christmas!!!

By: Bishop Berard T. Oshikawa, OFM Conv.

As I was writing for 12th issue of the monthly newspaper of the diocese "Minami no Komyo", it is still on the half of November and so not yet an advent season. I have been writing the Christmas greeting for everyone as bishop of the diocese for the past twenty years. Time flies, now I am already one year and half of my season of advent, following the Church law of fulfilling the duty until the new bishop is announced. It is possible that when this Christmas message is release a big joy will be delivers to us by our Holy Pope Francis.

That is why this could be my last Christmas message as bishop of the diocese of Naha. Together we shall overcome the anxiety of this year with the Christmas joy of welcoming the announcement of the new bishop. Our beloved Holy Father says that Christmas is overcoming anxiety and pessimism. It is a celebration of trust and hope. It is an invitation to the mystery of the birth that gives light to our faith. Let us entrust to Gods providence and offer prayers to our Lady who leads us to the baby Jesus in the manger in Bethlehem.

God showed great mercy in the birth of the Savior who became man to live among us. The mystery that let us experienced Gods mercy, true salvation and deep joy with in. The child in Bethlehem was born for the salvation and joy of all. Thru the intercession of the Blessed Mother let us offer prayers and thanksgiving to our God. Just like the shepherds living out in the fields nearby that night when the angel of the Lord appeared to them, and the glory of the Lord shone around them, and they were terrified. But the angel said to them, "Do not be afraid. I bring you good news that will cause great joy for all the people. Today in the town of David a Savior has been born to you; he is the Messiah, the Lord.(Lk 2:9-11). Let us acknowledged the good news brought by the birth of our Savior and welcome Him in our hearts at this season of great JOY delivers to mankind. Christ Jesus is the same today as yesterday and forever (Heb13:9). The same birth that we are going to celebrate with the fast approaching new year.

May His unchanging blessings and peace be with you all. I will remember all of you in my prayers during the Christmas Eve mass at the Cathedral in Kainan.

Looking Back in November !!!

Last November 3, 2017 the first Mission School in the Southern part of Okinawa, Kaisei Elementary school had their thanks giving mass for their new building celebrated by Bishop Oshikawa together with the priest of the diocese and later have the program at the gym. The past principals, other members from the religious community and even some government officials of Ishigaki participated too at the celebration. Children of the Kaisei Elementary School offered songs and dances. Ms. Sakiyama, the current principal of Kaisei delivered that she receives a message that Kaisei Elementary School even if it is small at the southern most of Japan, this mission school shines. This is what they believe that each children shines with in and that may grow in Kaisei sharing that light to others.

A Time of Joy!!!

December 9, 2017 at 8:00 pm Japan time the big news has been announced from the Vatican by His Holiness Pope Francis. The new ordinary of the Diocese of Naha was chosen the successor of His Excellency Bishop Berard Oshikawa, OFM Conv. The one who is to lead and handle the episcopate seat is none other than Rev. Fr. Wayne Berndt, OFM Cap. The Bishop elect will have his installation as Bishop of the Diocese of Naha on February 12, 2017. A prayer answered for the faithful of Naha diocese who hoped to have a bishop like Bishop Oshikawa who understand the Okinawan people and its tradition. The bishop elect Bishop Berndt was born on May 15, 1954 came to Japan in 1981 and was ordained priest in 1983.

学園だより

海星小学校 新校舎落成を祝う

校長　崎山　麻希

十一月三日、本校新校舎落成祝賀の日。押川司教様と那覇教区の司祭助祭団、沖縄本島や本州からも歴代校長や多くのご来賓をお迎えして、海星小学校は大きな喜びと感謝に包まれました。

本事業は、創立五十周年記念事業の大きな柱として、前校長の石垣陽一郎終身助祭の指揮の下で六年前より校舎改築の準備作業がスタートしました。長い準備期間の後、昨年十一月二十五日、押川司教様司式の下、起工式が行われ、土工事が始まりました。四月十五日に一階スラブ打設、五月二十五日に二階スラブ打設と工事は順調に進み（台風銀座といわれる石垣島ですが、昨年・今年と台風直撃がありませんでした。神に感謝！）この九月十五日に工期内の完成となりました。九月二十二日には、司教様司式により新校舎祝別式を執り行い、十月二日からは美しく新しい校舎で学習を開始いたしました。

そして去る十一月三日、午後一時からカトリック石垣教会の聖堂をお借りして十五名の司祭助祭団による新校舎落成感謝ミサが捧げられました。ミサに続き落成式典を行い、内覧会の後で本校体育館に場所を移して祝賀会が行われました。

落成感謝ミサには在校生と保護者に加え、多くの卒業生、保護者、OB、教会関係者の皆様にもご参列いただき、聖堂を埋め尽くすほどの方々と共に感謝の祈りを奉げることができました。厳かな雰囲気の中にもミサ曲を歌う子供たちの元気な声が響く、喜びに満ちたごミサとなりました。

内覧会の時には交流のある地元大川字会の旗頭・棒・獅子保存会の方々による勇壮な獅子舞で嘉例をつけていただき、日本最南端にあるミッションスクールとして地域に根差した学校であることを誇りに思う一幕となりました。

祝賀会では東京から駆けつけてくださった創立者のペトロ神父様から「海星」という名前に込められた創立当初の思いについてスピーチをいただき、その思いに応えるべく、高学年児童による力強いエイサー演舞と、全児童による美しいハーモニーやソロの歌声を披露しました。

祝賀会のラストには、シスター中村睦子様（第六・八代校長）の作詞作曲により、創立十周年を記念して制定された校歌をご本人の指揮で、来場者全員で斉唱し、その後は恒例の校歌ダンスを在校生と卒業生が踊り、会場は大いに盛り上がりました。

落成感謝ミサの司教様のお説教の中で、「海星小学校は日本の一番南にあるミッションスクールです。小さいけれど輝いています」というお言葉をいただきました。子供たち一人ひとりが自分の中にある様々な輝きに気づき、その光を周囲の人々と分かち合って成長していく場であり続けるよう、教職員一同、心新たに日々の教育活動に邁進して参りますので、これからも教区の皆様の祈りとご協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。感謝を込めて・・・。

修道会だより

閉院のご挨拶

那覇教区、兄弟姉妹の皆さま

皆様方には待降節に入り、主のご降誕をお迎えする心の準備をなさっておられることでしょう。

さて、私どもマリアの宣教者フランシスコ修道会は1972年に那覇教区に受け入れられて以来、安里教会と伊江島教会でお世話になってまいりましたが、この度、沖縄修道院のミッションを11月30日を持ちまして閉じました。

本当に長い間お世話になりました。微力ながら力を尽くしてこられたと思っております。神様の導きのもとであったことは当然ですが、教区の皆様の力強い支えなくしては続けてくることが出来なかったと深く感じております。心から感謝申し上げます。

これからも那覇教区が心一つにして宣教に励み、御国の発展のために貢献されますようお祈りいたします。ありがとうございました。

マリアの宣教者フランシスコ修道会
沖縄修道院　姉妹一同

那覇教区平和委員会

平和委員会10月例会の報告

平和を実現する人は幸いである。

平和委員会の10月例会は10月29日(日）にカプチン会司祭のウェイン神父をお迎えして、安里教会で行われた。今回は平和委員会発足3周年ということで、谷司教からの3年間の活動報告があった。その後ウェイン神父の講演が始まった。演題は山上の垂訓で有名な「平和を実現する人々は幸いである。」

ウェイン神父は日本キリスト教協議会平和・核問題委員会(2017年8月1日）の「平和月間のための祈り」で、講演をはじめられた。その祈りには次の文言があった。

「沖縄で、長年にわたり民意が踏みにじられ、美しい森や海も破壊され、どこも受け入れたくはないものを無理矢理に押し付けられた歴史を、国民すべての懺悔とともに閉じることができますように。国は立ち止まり、戦争のための準備ではなく、真の正義・平和をもたらす道を歩むことができますように。主よ、どうぞ導きをお与えください。」

ウェイン少年の多感な少年時代、それこそ人格の形成期に、アメリカ合衆国では、彼の人生に多大なインパクトを与える出来事が頻発して起こった。ベトナム戦争と公民権運動。1964年のトンキン湾事件以後アメリカ合衆国はベトナムに大規模な介入を始める。ウェイン少年はそのとき10歳。戦争の終結を見るのはそれから10年後だ。あと一つは人種差別撤廃をうたった公民権運動だ。この運動のピークは20万余の人々まきこんでのワシントン大行進だ。その同じ年にケネディー大統領の暗殺がある。1964年に人種差別撤廃をうたった公民権法が成立。そしてマーチン・ルーサー・キング牧師がノーベル平和賞を受賞。しかし、そのキング牧師も1968年に暗殺される。

ウェイン神父は当時のことを思い出しながら語った。ベトナム戦争に異を唱えたら、父親に「裏切り者」と叱責されたこと。2人の神父と1人のシスターが反対の声を上げたのには驚いたし、嬉しかったこと。ウェイン神父の宣教地が沖縄だと知った、友人の父親は、自分の代わりに沖縄の人たちに謝ってほしいと頼んだこと。彼は先の大戦で沖縄で戦っていたのである。それから少年のころのヒーローであったキング牧師のあの有名な演説「私には夢がある」を全文朗読された。そして問答無用の世の中、テロや暗殺が横行する社会にあって、いやそういう社会だからこそ、人間の理性に基づく対話が必要であるし、その対話で、すべてのものごとは解決できると力説された。

1968年第1回世界平和の日に、福者パウロ6世は同じことを次のように言っております。「国際間の紛争は、人間の思慮ある方法では解決できないと信じ込む危険です。つまり人間の権利や、正義や、公平に根差した試みでは解決できず、殺人的な力だけでしか解決できないと信じ込む危険です」（教皇フランシスコ　第50回「世界平和の日」教皇メッセージより)。

ウェイン神父は語ります。「平和を実現する人々」の平和活動の指針は「真理と正義と自由と愛に根ざした平和」であり、「非暴力と愛」を目指さなければならないと。そして教皇フランシスコの第50回「世界平和の日」メッセージを引用しています。「野心に満ちた国家主義の緊張でもなく、暴力による征服でもなく、間違った市民社会をもたらす抑圧でもなく、平和こそ人類の発展のため必要な唯一の道です。」

「第1回世界平和に日」の制定へと福者パウロ6世を突き動かしたのは1960年代の冷戦の最中のベトナム戦争等と世界の混乱でした。あれから50年、世界はまだまだ混乱しています。わが国では、安保法制のほかにも、同じく民意を無視して採択された秘密保護法、更には治安維持法の再来が危惧されるいわゆる共謀罪法についても黙ってはいられません。憲法を改正し、戦争の道へと突き進んでいるからです。世界に目を転じても中東問題、ISによるテロの横行、民族紛争そしてアメリカでは白人至上主義が横行している始末です。それでも教皇フランシスコは真理と正義と自由と愛に根ざした平和の認識と平和への愛を訴えています。50年たっても福者パウロ6世の言葉はその重要性と緊急性は失っていないと断言しています。

ウェイン神父の今回の講演会はキリスト者の平和活動のスタンス(立ち位置）を改めて認識させた貴重な講演でした。

（平和委員会　稲福捷夫）

◆編集部より

毎月第一日曜日には皆様のお手元に届くように編集発行している教区報ですが、本十二月号の発行は種々の事情により二週間遅れとなりました。心よりお詫び申し上げます。

お詫びとお知らせ

先月号でお知らせした東京教区大司教選任の速報で、選任された菊地司教様の「地」の文字が誤って表記されていました。謹んでお詫び申し上げます。

なお、菊地大司教様の着座式は十二月十六日午前十一時から東京カテドラル聖マリア大聖堂で行なわれます。

訃報

マリア・デォ・ティ・ヒエン 様
(首里教会主任マイケル神父様ご母堂)
二〇一七年十一月十八日帰天
享年七十七歳

◆普天間教会
ファウスティナ 仲村 千秋 様
二〇一七年十一月七日帰天
享年五十六歳

◆開南教会
マルガリタ・マリア 多嘉良 愛子 様
二〇一七年十一月十八日帰天
享年九十五歳

『声』角笛

伊江島のシスターのみなさまへ感謝を込めて

名護教会

二〇一七年十一月末日をもって、マリアの宣教者フランシスコ修道会の伊江島での活動が終了となりました。私は、伊江島教会とシスターの皆様に大変お世話になりましたので、感謝と思い出をぜひ皆様にお伝えしたいと思います。

二〇〇九年秋頃、曾野綾子さんの本に感銘を受け、カトリックに生まれて初めて関心を持ったとき、主人の二度目の転勤で住んでいた伊江島にカトリック教会があることを知りました。その時の感動は今でも忘れられません。主人と一緒に行きましたが、突然の訪問に対応して下さったシスター濱本は驚かれたことでしょう。教会の庭で話をし、献金をお渡しし、名前のみを告げたのが最初の訪問となりました。その後も住まいが近かったので、何度か用事をみつけてはシスターたちに会いに伺いました。

そして、年が明けて二〇一〇年の一月の終わりころ、ある日突然、どうしてもカトリックの勉強をしたいという強い思いにとらわれました。ご縁のできた伊江島のシスターのもとで勉強を教えていただくことも考えましたが、あと一年で名護に引っ越すことが決まっていたので、周りの人たちのすすめで、毎週名護教会に通ってシスター山田から勉強を教わることと、毎週木曜日の伊江島のごミサに休まずにあずかることになりました。そして初めてのごミサは「灰の水曜日」のごミサでした。シスター織田がオルガンを弾き、シスター佐藤とシスター濱本にはさまれて、先頭の中央で人生初のミサにあずかりました。この時私は、この日のことをずっと忘れないだろうなと思ったことを覚えています。毎週のミサ後のお茶とお菓子、ヨセフ神父様、シスター方、フィリピンや伊江島の信徒の方々とのお話がいつも楽しみでした。名護教会での勉強もとても有意義で楽しく、あの頃の私は、乾いた砂がたくさんの水を吸い込むようにすべてを吸収していったように思います。

毎週伊江島からわくわくして通い、フェリーも、二月から十二月の間にたった一度しか欠航せず、毎回私を無事に運んでくれたことは、まぎれもなく神さまからの恵みでした。そして二〇一〇年十二月二十四日に洗礼を受けることができました。

伊江島が閉鎖になると聞いて、様々なことを思い巡らしていく中で、とても強く思ったのは、なぜ神さまは、私が伊江島にいるときに洗礼を受けたいという気持ちを起こされたのだろうということでした。そして、気づきました。私には、伊江島のシスター方とのふれあいの中で信仰を育てていくことが必要だと、神さまが思われたのだと…。家庭的な小さな教会で、優しいシスター方に囲まれてゆっくり少しずつ育つことを神さまが望んでくださったのだと思ったとき、神さまのいつくしみに心が温かくなり、涙があふれました。

最後にシスター方へ心からお礼を申し上げます。私の伊江島での最後の一年間に大きな花を添えて下さり、私を信仰を持つ者にしてくださり、本当にありがとうございました。私はシスターのみなさまに信仰を育んでもらった者として、誇りをもってこれからも信仰の道を歩んでいきます。主とともに・・・

一生忘れられない思い出に感謝を込めて。本当に本当にありがとうございました。

（渡慶次純栄）

葬祭の「やすらい企画」

私たちは故人とご遺族の意向を最優先に考えます。お気軽にご相談ください。

那覇市首里鳥堀町4-57-3
TEL＆FAX:098-885-8205
http://w1.nirai.ne.jp/yasurai
E-mail:yasurai@nirai.ne.jp

24時間受付

代表者・新田（あらた）　選（たでお）

～ご遺族の心をもって奉仕する～

葬典社（そうてんしゃ）

＊創業30数余年・・・。
＊皆様に支えられ「感謝」とともに人生を閉じるためのお手伝いをさせていただいております。
＊ご質問、ご相談、24時間、いつでもお電話下さい。

「ゆうなの会」会員募集中です。

（実務担当）比嘉（ひが）　高茂（たかしげ）

24時間受付

☎098-853-1059（てんごく）

主日・クリスマス・新年のミサ時間案内
Mass Schedule

教会	主日のミサ Sunday's Mass		クリスマス Christmas		新年 New Year	司祭 Priest	TEL
	日曜日 Sunday	土曜日 Saturday	24日(日)	25日(月)	★は12月31日		
名護 Nago	10:00		18:30	19:00	10:00	ヨセフ・ブイ師	0980-52-2241
愛楽園 Airakuen	8:00		8:00	8:00	8:00	ヨセフ・ブイ師	0980-52-8379
読谷 Yomitan	11:00		6:00 19:30	11:00	★19:30 10:00	ロルダン・ゼルナ師	098-956-3789
石川 Ishikawa	9:00		19:00	9:00	10:00	稲国　安彦師	098-964-2084
具志川 Gushikawa	9:30		20:00	10:00	10:00	ピーター・チェ師	098-974-3643
泡瀬 Awase	9:30		19:30	6:00 19:30	9:30	ボスコ・ティン師	098-937-3598
コザ Koza	8:30		19:00	8:00	10:00	ヨアキム・ホアイ師	098-937-7064
普天間 Futenma	9:00		(日・英・スペイン語) 19:00	(日本語・英語) 9:00	★19:00 (日・英・スペイン語) ★23:00	アジット・ロドリゲス師	098-892-2503
				25日～1月3日 9:00			
真栄原 Maehara	10:00		19:30	10:00	10:00	有馬　マテオ師	098-897-7484
首里 Shuri	9:00		19:00	19:00	★19:00 9:00	マイケル・ヴィン師	098-884-4787
安里 Asato	9:00	19:00	19:30	10:00	★11:45 10:00	古川　政孝師	098-863-2021
開南 Kainan	9:30 19:00		20:00	15:00	0:00 9:30	フランシス・ティエン師	098-832-3037
小禄 Oroku	10:00	English 19:00	20:00	10:00	3が日 9:00	クレーバー・デソーザ師	098-857-2128
与那原 Yonabaru	9:00	(第2日曜) English 18:00	19:00	19:00	3が日 9:00	ウェイン・バーント師	098-945-2355
大里 Ozato	(第1・3日曜) 11:00			11:00		ウェイン・バーント師	
宮古島平良 Miyakojima	9:00		19:00	9:00	0:00 10:00 2、3日9:00	藤澤 幾義師	0980-72-2455
保良 Bora		17:00		12:00		藤澤 幾義師	
南静園 Nanseien	14:00			15:00		藤澤 幾義師	
石垣 Ishigaki	9:00		9:00 19:00	10:00	★9:00 ★19:00 10:00	サニー・カンティラーノ師	0980-82-2322

Misa en Español
スペイン語ミサ

Padre Patrick Sulivan
(パトリック・サリバン師)
090-1947-1171

与那原 Yonabaru	Premero Domingo (第1 日曜日)	19:00	★31.Diciembre 2017 Futenma(普天間) (日・英・スペイン語) 23:00
読谷 Yomitan	Sabado antes del 2do. Domingo 第2日曜日の前夜 (土曜日)	18:00	
小禄 Oroku	Segundo Domingo (第2 日曜日)	19:00	
名護 Nago	Tercero Domingo (第3 日曜日)	19:00	E-mail psofmcap@aol.com
普天間 Futenma	Cuarto Domingo (第4 日曜日)	19:00	Facebook Iglesia Okinawa